



## いしはら けんじ 石原 竜二

浜松営業所 業務課長

南星キャリアックス株式会社  
石原竜二さんは、大久保出張所に10年ほど勤務した後、2022年5月から浜松営業所へ異動となり、現在は業務課長として新人の育成や作業の管理を担当しています。人とのつながりを大切にしている石原さんに、仕事への臨み方や会社への想いについて聞きました。

——入社の上りつかけについて教えてください。

私は18歳のときから運送業に携わっていました。3〜4年ほどトラックのドライバーとして働いていたのですが、腰を痛めてしまい、一度フェードアウトしています。その後、腰の具合もよくなって、新たな就職先を探していたときに見つけたのが南星キャリアックスの求人募集です。

前職時代の納品先で会社のロゴが入ったトラックをよく見か

——大変な状況を乗り越えられたんですね。様々な経験を通して学んだことがあれば、お聞かせください。

多くの信頼関係を結ぶために尽力した大久保出張所での経験は、自分を一回り成長させてくれたと思っています。つらい経験もしましたが、そのおかげで今はどんな相手に対しても物怖じせずに発言できるようになりました。

入社からこれまでを通して誇りに思うのは、すべての職種に携われたこと。ドライバーとして10年間働き、構内作業員を2年間務め、さらには業務職員も務めました。こうした経験が大きな財産になっています。今後は新人教育にも力を入れていくつもりです。任された仕事を着実に完遂し、仲間たちとともに浜松営業所を盛り上げていきたいと考えています。



お客様から「ありがとう」と声をかけてもらったとき、そして部下から寄せられる相談に対応しているときに、仕事における何よりのやりがいだと語る石原さん。南星キャリアックスでの充実した毎日に感謝しつつ、これからもより一層、力を発揮していくでしょう。

——これまでの仕事の中で最も力を入れてきたのは、どんなことですか。

最も注力したのは、お客様との信頼関係の構築です。浜松営業所に移る以前の大久保出張所では、責任者として少しでも多くの荷主の方たちと関係を築こうと、こちらから積極的に話しかけてコミュニケーションをとるよう努めていました。会話

をきっかけにつなげた人たちは一般社員から重役クラスまで、立場も様々です。

お互いに言いたいことが言える間柄になるまでには、4〜5年ほどの時間がかかりましたが、いったん関係性が成り立つと条件をイーブンに出し合えるようになり、格段に仕事がいやしくなると感じています。最終的には30人ほどを集めて飲み会を開くまでになり、得意先企業との強固なつながりを築くことができました。

——思わず辞めてしまいたいそうになった、つらい経験はありましたか。

長い時間をかけて築いてきた良好な関係が、急に崩れてしまった出来事がありました。会社の内部事情なので詳しくはわかりませんが、2018年頃、それまで経営に直接関与していなかった相手方企業の社長が、急

に陣頭指揮をとりはじめたのが直接の原因です。数字にシビアで昔かたぎのためなのか、その方が協力会社に対して威圧的に対応する場面もよく目にしました。

そのまま相手から出される要求に従ってしまえば、作業員やドライバーたちに相当な負担がかかるため、こちらも一方的に引き下がるわけにはいきません。週に一度のペースで行われる先方の会議には欠かさず出席し、事情を説明しようと試みましたが、その度に一喝されました。そうした心労によるものなのかはわかりませんが、私は突発性難聴を患ってしまいました。当時は本当にしんどい思いをしました。部下たちの苦労を考えると、途中で放り出すわけにもいかず、懸命に頑張りました。